

市民協働型お祭りに関する

提言書



発行日 平成27年10月29日
一般社団法人 苫小牧青年会議所

市民協働型お祭りに関する提言書

目次

- 1、 初めに
- 2、 とまこまいスケートまつり、港まつりの現状分析
 - I. とまこまいスケートまつり、港まつりの来場者数推移と協賛金の増減
 - II. 一般社団法人苫小牧青年会議所実施アンケート調査報告
- 3、 提言書概要
 - I. お祭りの運営組織についての提言
 - i 「苫小牧市行政改革プランNEXT STAGE」について
具体案
【一般市民を含めた企画小委員会立ち上げ】の提案
 - II. 市民がお祭りに参加する為の提言
 - i 「連帯感」と「達成感」の必要性和「担い手の育成」
具体案
【とまこまい市民踊りの活性化】の提案
【子ども達がお祭りに参加出来る企画実施】の提案
- 4、 最後に
- 5、 付則
参考資料・参考文献
- 6、 発行者

1、 初めに

伝統や賑わいのあるお祭りが開催されている地域には、活気ある市民が生き生きと郷土愛をもって暮らしています。地域の文化や歴史を次の世代へ託し、子ども達が故郷に誇りを持ち、郷土愛を醸成する場としてお祭りは地域にとって欠かせないものであります。

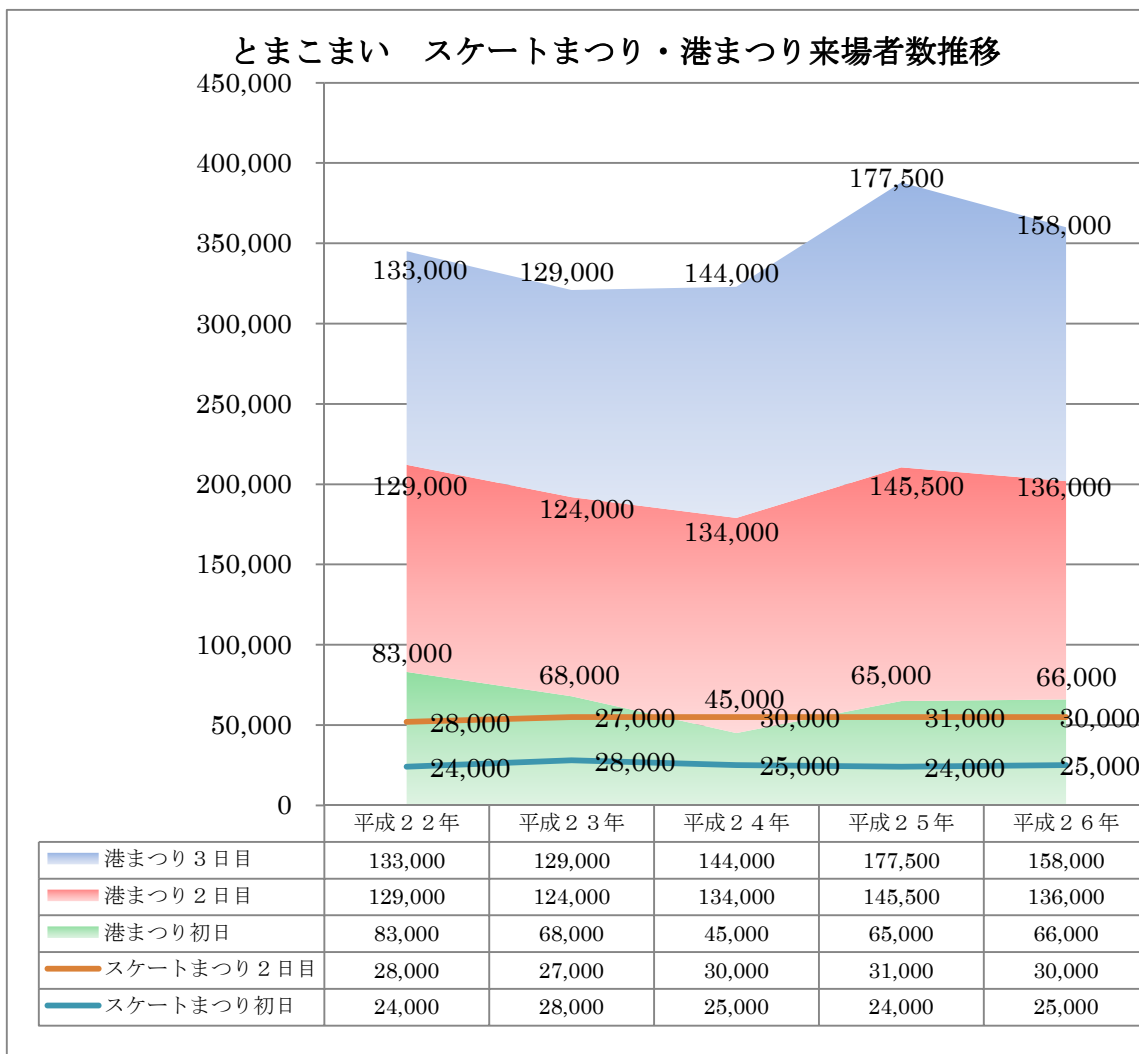
苫小牧を代表する「とまこまい港まつり」は60年「とまこまいスケートまつり」は49年もの間市民に愛され、子どもの時に来た世代が親になり苫小牧で生まれ育った者であれば全ての世代の良き思い出として地域に根付いています。また、お祭りに賛同する民間企業や諸団体も各々の想いを連ね運営に関わり、苫小牧にとって心強い存在となっています。この賑わいを絶やさない為にもお祭りを意味あるものにしていかなければなりません。

その為には地域のお祭りに市民と企業の積極的な参画を促し、地域に関わり参加する事で郷土愛を育み「連帯感」と「達成感」が溢れた苫小牧市民によるお祭りを創り出さなければなりません。市民が創りあげる市民協働型お祭りをを行う事で、市民の声を多く反映し様々な世代の市民が同じ目的に向かい、お祭りの計画や運営等地域に関わる切掛けを与え、子ども達の感動を生み笑顔が溢れ一生の思い出に残る「とまこまいスケートまつり」「とまこまい港まつり」を創り次の世代の担い手に継承しなければなりません。

そこで我々市民協働委員会は苫小牧市民の想いを受け継いできたお祭りの在り方を考え、市民協働型の新たなお祭りに進化させる為に施策を考え、提言させていただきます。

2、 とまこまいスケートまつり、港まつりの現状分析

I. とまこまいスケートまつり、港まつり来場者数推移と協賛金の増減



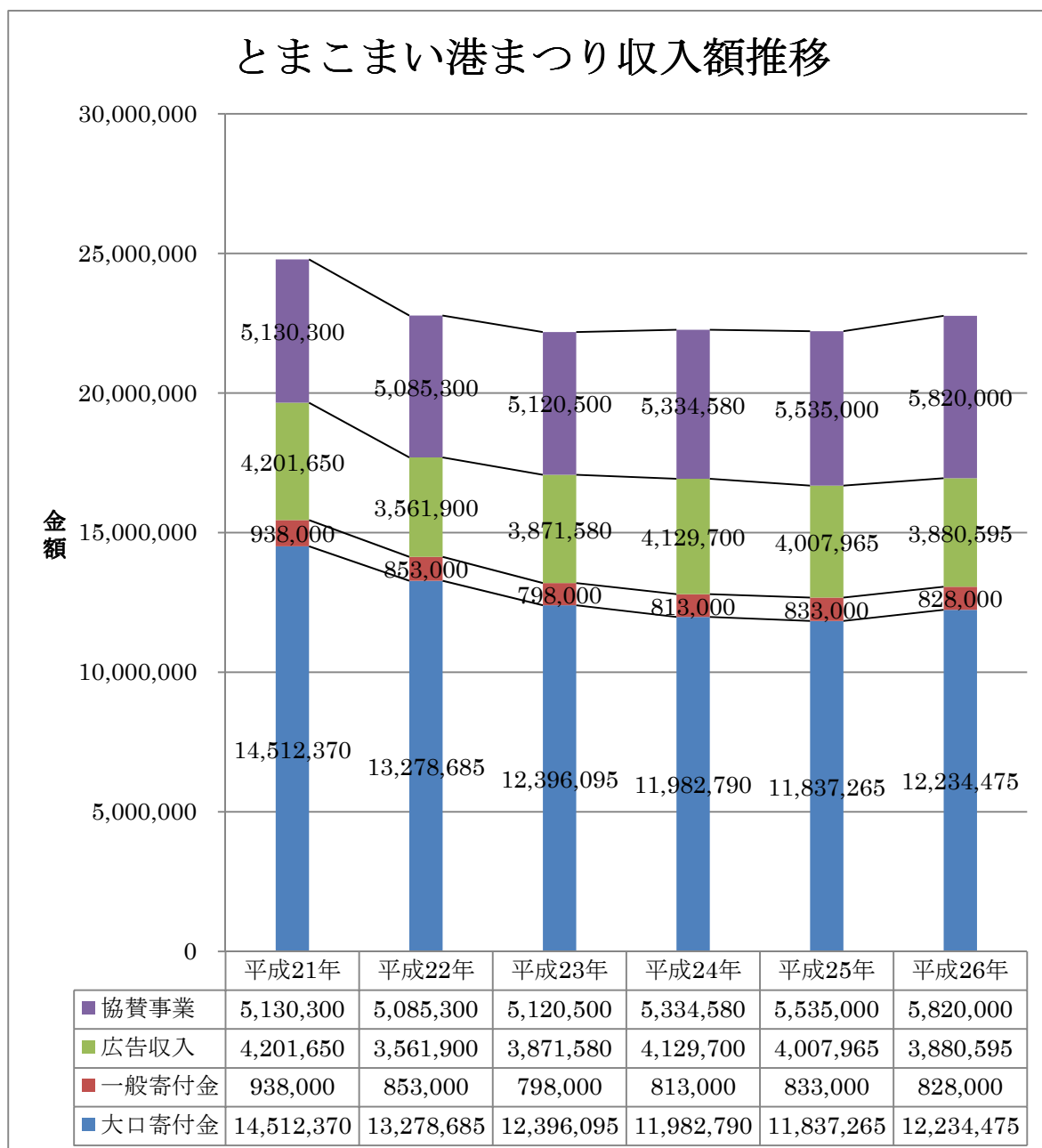
出典：とまこまい港まつり実行委員会 とまこまいスケートまつり実行委員会

表 とまこまいスケートまつり・港まつり開催日の天気

	平成22年	平成23年	平成24年	平成25年	平成26年
スケートまつり 初日	晴れ -5℃~-11℃	晴れ 2℃~1℃	晴れ -1℃~-5℃	晴れ -2℃~-4℃	晴れ -1℃~-5℃
スケートまつり 2日目	曇り 2℃~-4℃	晴れ 3℃~-6℃	晴れ 0℃~-6℃	晴れ -1℃~-6℃	曇り -1℃~-7℃
港まつり 初日	晴れ 31℃~22℃	晴れ 24℃~20℃	曇り 23℃~20℃	晴れ 24℃~20℃	晴れ 31℃~22℃

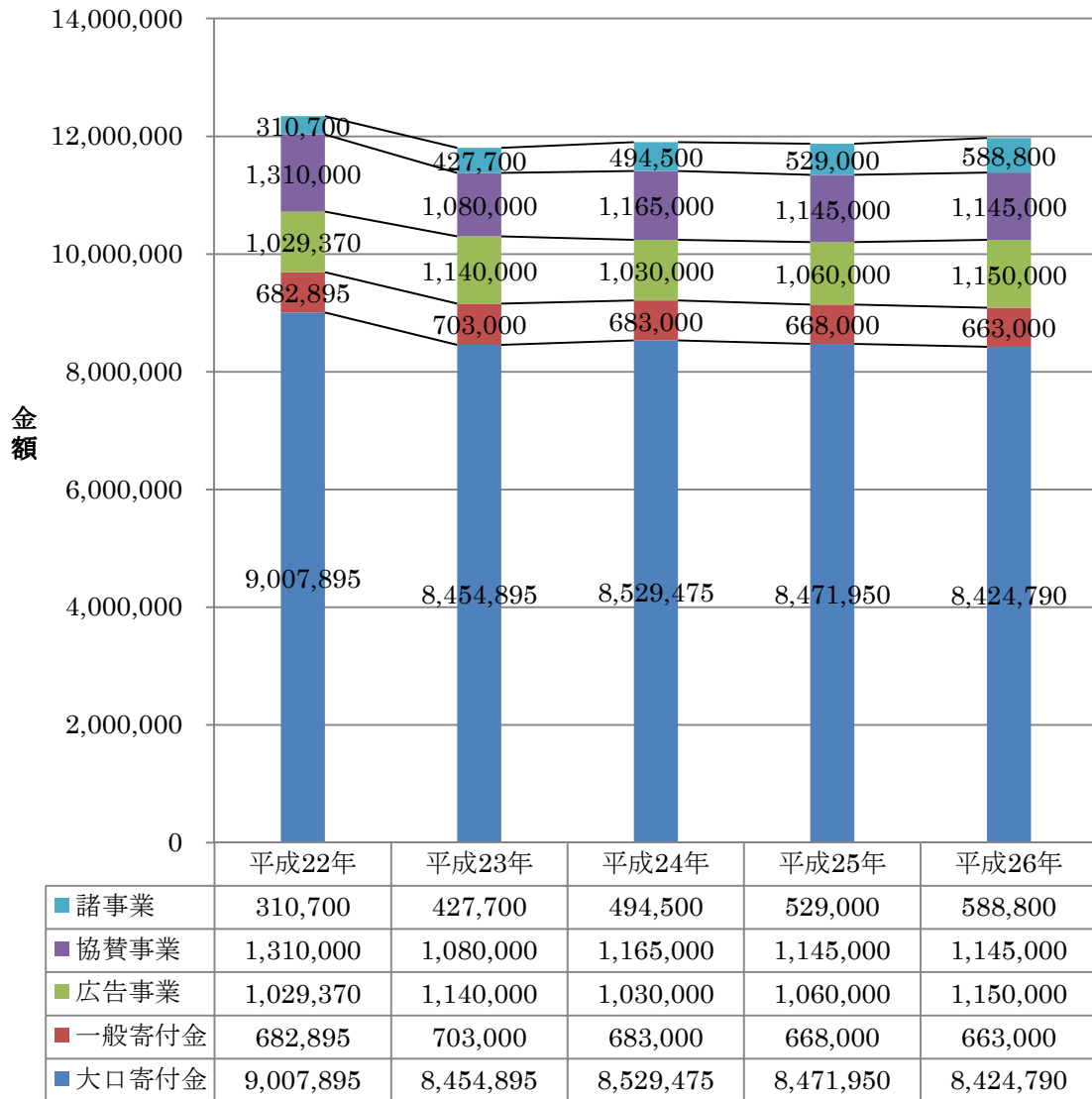
港まつり 2日目	晴れ 31℃～25℃	晴れ 26℃～20℃	晴れ 26℃～20℃	晴れ 24℃～19℃	晴れ 30℃～20℃
港まつり 3日目	晴れ 30℃～24℃	晴れ 31℃～21℃	曇り 24℃～20℃	晴れ 22℃～19℃	晴れ 29℃～20℃

出典：気象庁（胆振地区 気象過去データベース）



出典：とまこまい港まつり実行委員会

とまこまいスケートまつり収入額推移



出典：とまこまいスケートまつり実行委員会

II. 一般社団法人苫小牧青年会議所実施アンケート調査報告

実施場所	平成27年度 第60回とまこまい港まつり会場内 一般社団法人苫小牧青年会議所ブース
実施日時	8月7日（金）～8月9日（日）
対象者	10代以上の男女
返答者数	合計273名
手法	とまこまい港まつり会場内 苫小牧青年会議所ブースに来場した 18歳以上とみられた来場者を無作為に選出し声をかけアンケートに返答いただきました。

アンケート用紙（一般社団法人苫小牧青年会議所作成）

アンケート御協力をお願い

ご来場ありがとうございました。アンケートへのご協力をお願い致します。

問1. お住まいを教えてください。

苫小牧市内 苫小牧市外 道外 海外

問2. ご年齢、性別を教えてください。

年齢：10代 20代 30代 40代 50代 60代以上
性別：男性 女性（子どもがいる 子どもはいない）

問3. あなたの地元で誇りに思えるお祭りがありますか？

はい いいえ

はいの方はお祭りの名称 [

]

問4. スケートまつりと港まつりですが子どもの頃と現在のどちらがにぎわっていると思いますか？

スケートまつり：子どもの頃のほうがにぎわっている 現在の方がにぎわっている
港まつり：子どもの頃のほうがにぎわっている 現在の方がにぎわっている

問5. 今のスケートまつり、港まつりに満足していますか？

スケートまつり：はい いいえ
港まつり：はい いいえ

問6. スケートまつり、港まつりですが、変えた方がいいと思いますか？

スケートまつり：はい いいえ
港まつり：はい いいえ

問7. スケートまつり、港まつりは今後も必要だと思いますか？

スケートまつり：はい いいえ
港まつり：はい いいえ

問8. 苫小牧に新しいお祭りが必要だと思いますか？

はい（あった方がいい） いいえ（なくてもいい）

はいの方にお聞きます。どの様なお祭りがあったらいいですか

[

]

問9. お祭りにボランティアとして参加したいですか？

参加したい 参加したくない

問10. 今後、お祭りを企画できるチャンスがあったらやってみたいですか？

企画してみたい やりたくない わからない

その理由を教えてください。 [

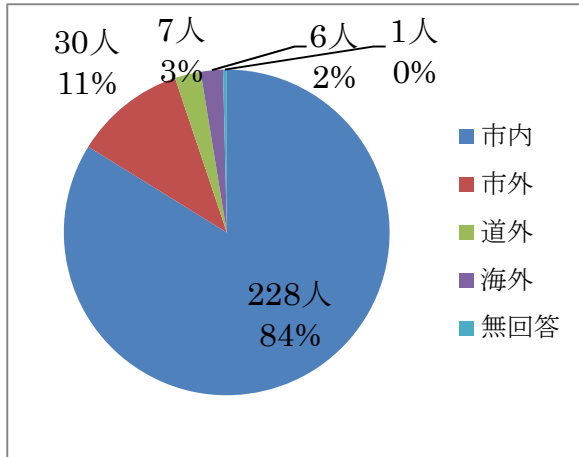
]

Qお祭りでやってみたい、やったら面白いアイデアがありましたらお書き下さい。

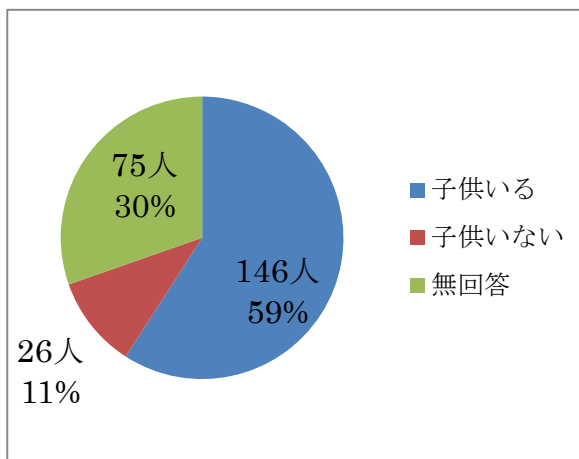
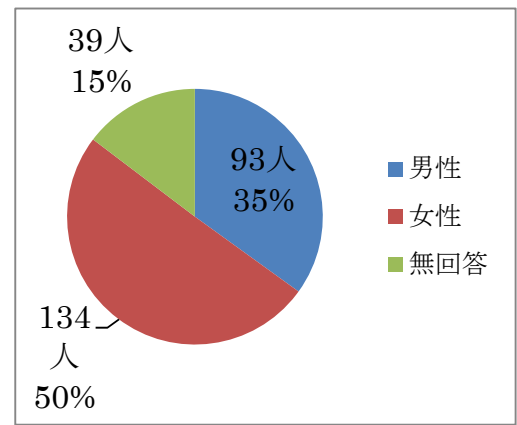
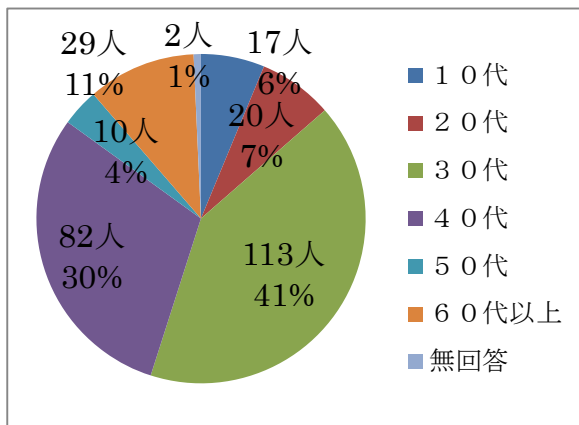
ご協力ありがとうございました。（ご記入頂いた情報につきましては今後の活動の参考にさせていただきます。他の用途には一切使用致しません。）

アンケート統計内容

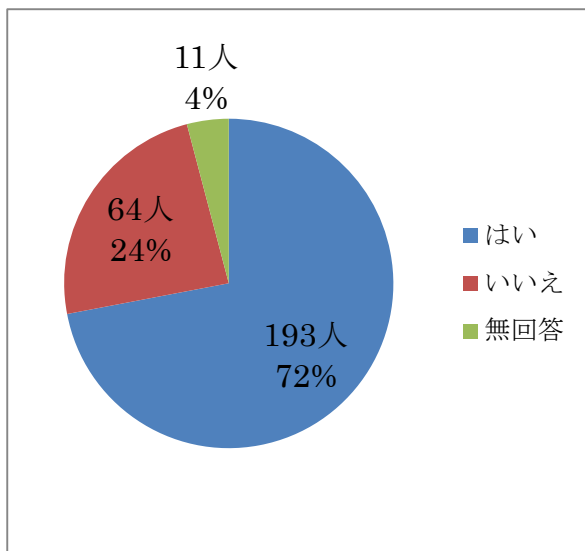
問1 お住まいを教えてください。



問2 ご年齢、性別、子どもの有無を教えてください。



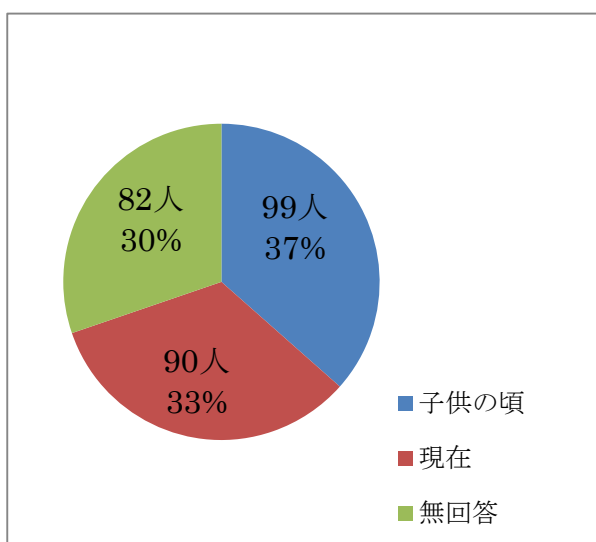
問3 あなたの地元で誇りに思えるお祭りがありますか



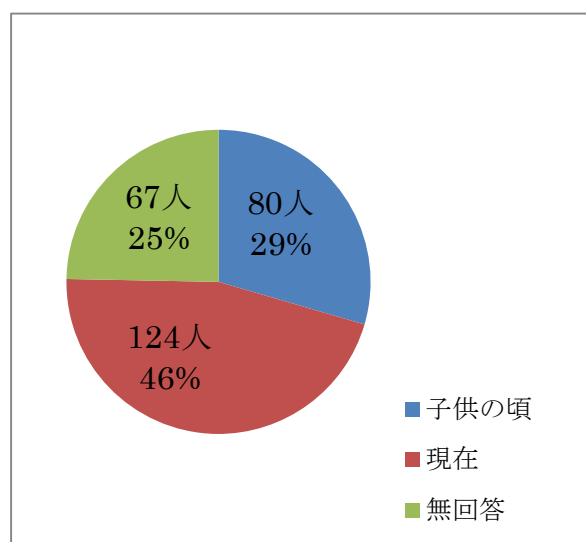
記述内容	記述回答 (同意見数)
● 港まつり	(101)
● スケートまつり	(22)
● 樽前山神社まつり	(11)

問4 スケートまつりと港まつりですが子供の頃と現在どちらが賑わっていると思いますか。

とまこまいスケートまつり

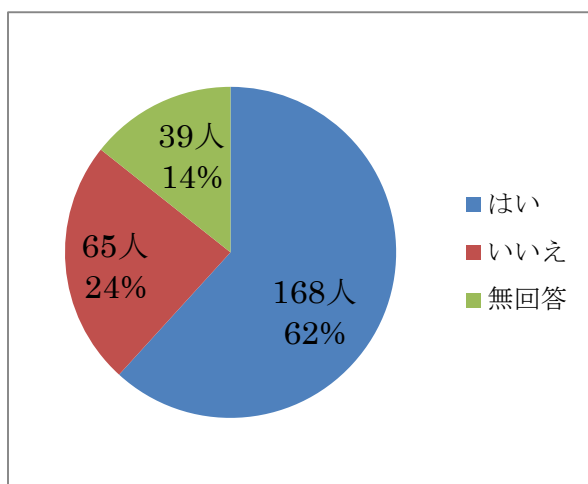


とまこまい港まつり

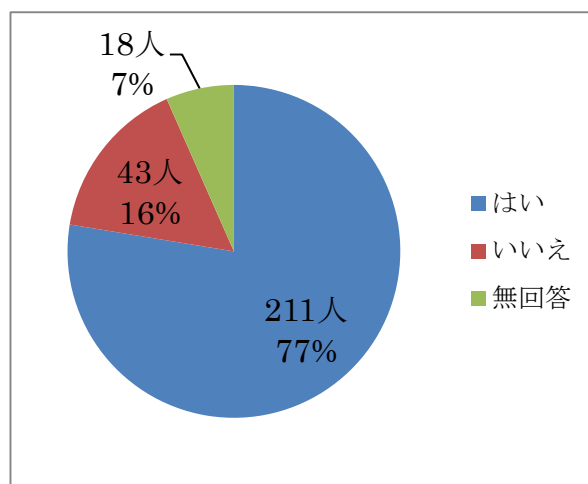


問5 今のスケートまつり、港まつりに満足していますか。

とまこまいスケートまつり

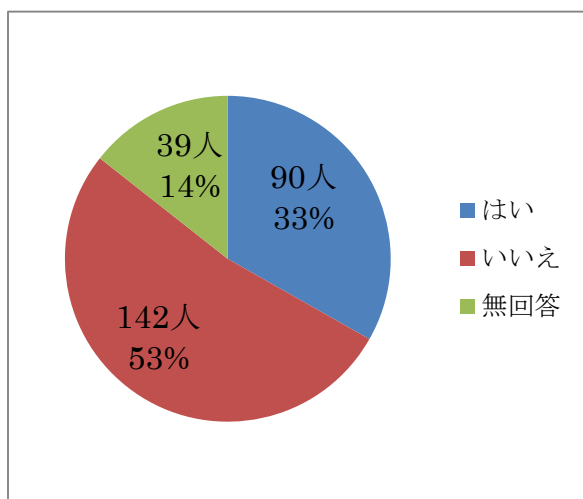


とまこまい港まつり

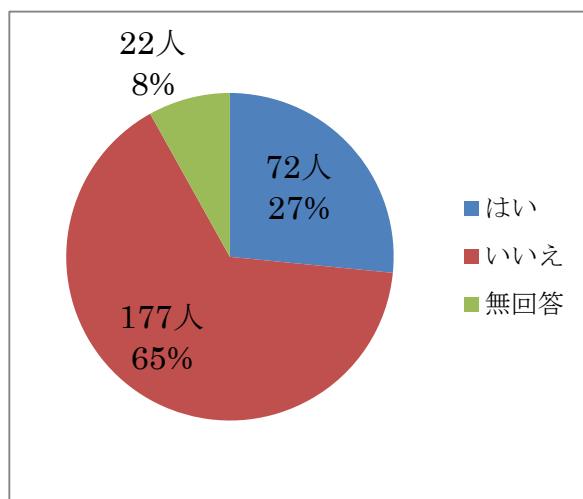


問6 スケートまつり、港まつりですが変えた方がいいと思いますか

とまこまいスケートまつり

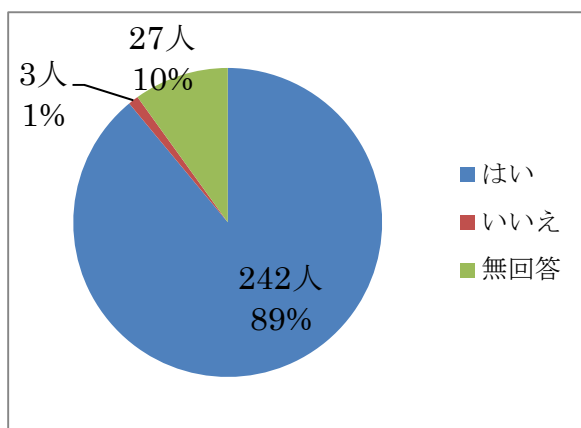


とまこまい港まつり

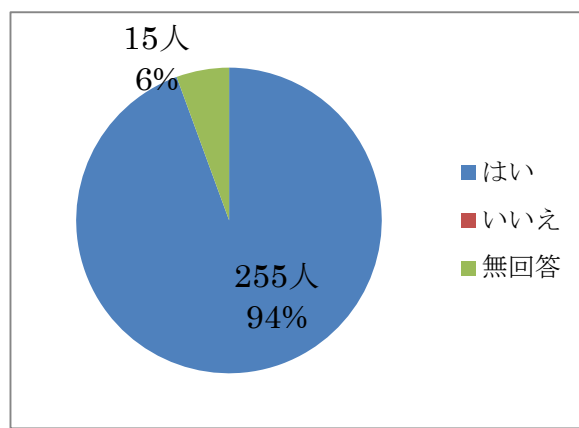


問7 スケートまつり、みなとまつりは今後も必要だと思いますか。

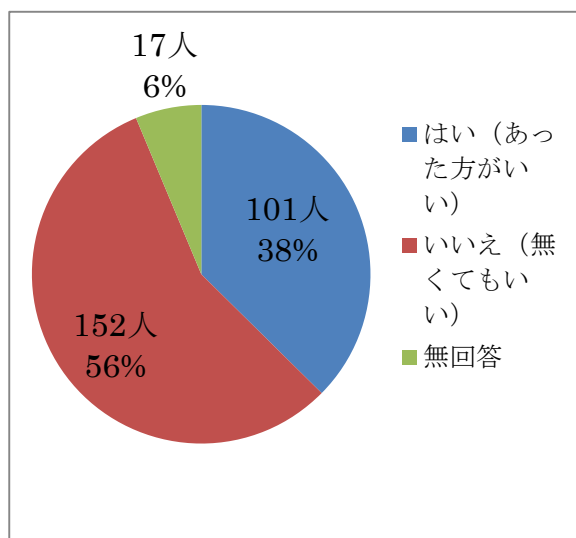
とまこまいスケートまつり



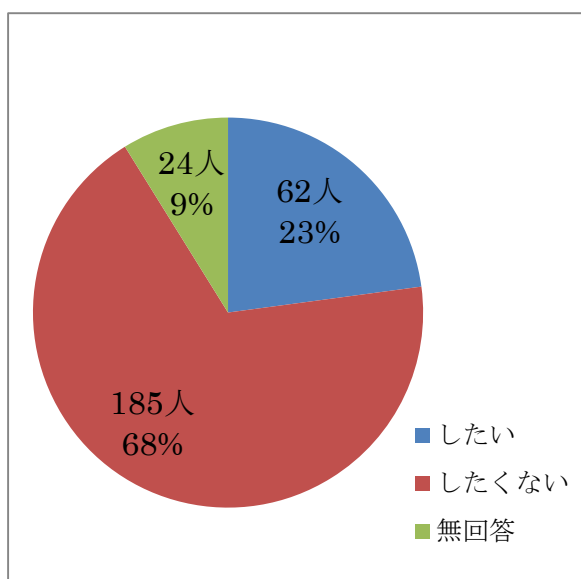
とまこまい港まつり



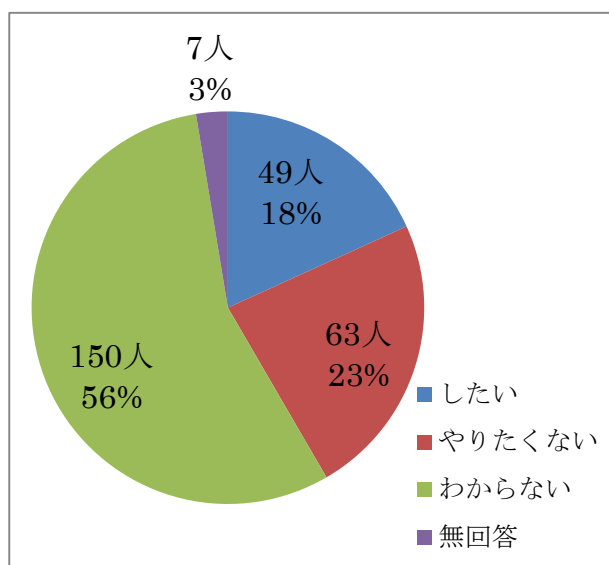
問8 苫小牧に新しいお祭りは必要だと思いますか。



問9 お祭りにボランティアとして参加したいですか。



問10 今後、お祭りを企画できるチャンスがあったらやってみたいですか。



現状分析

実施したアンケート調査からお祭りの来場者は、ほぼ苫小牧市民で天候等関係なくお祭りに娯楽イベントとして来る傾向があります。

B級グルメのような、人口集中都市で行われる各地の特色ある食べ物を集めた食をメインとした娯楽イベントや、YOSAKOIソーラン祭りや花火など観覧したいという意見があり、とまこまいスケートまつり、とまこまい港まつりに変化を求めている現状があります。広く市民への娯楽イベントとして一定の来場者数を保持し、苫小牧市民が満足を得ている事から成功と言えるでしょう。しかし、とまこまいスケートまつり、港まつりを開催するに至った、冬季の運動不足解消や、観光の活性化等、本来持っていた目的をうやむやにしたまま年中行事として開催され、特に家族で来場された苫小牧市民の娯楽イベントとして地域に定着し、企業からの寄付金が多数を占め、市民踊りも企業からの参加人数が増えている状況から見ても、地域の活性化や人と人との交流の場の役割として社会へどのような効果をもたらしているのか、両者とも不明瞭な状態にあると考えられます。つまり、公益の為地域へ果たさなければならぬ社会的なお祭りの役割がなされていない事になります。

3、 提言書概要

I. お祭りの運営組織についての提言

苫小牧市内の企業や市民からの協力を得て開催されているとまこまいスケートまつり、港まつりですが、残念な事に毎年行われているイベントになっている現状があります。この二つのお祭りを苫小牧の誇りとなり他地域に自慢できるお祭りにして現在の状態を抜け出さなければなりません。

そもそも、お祭りを執り行う理由は様々な地域や、そこに住む人々の生業等の風習が与える状況によって異なります。宗教的な理由から周期的に執り行われるもの、住民が集い地域ぐるみになって賑わいを創出するもの、大きく分けて「宗教性によるお祭り」と「市民によるお祭り」に分けられますが、両者とも地域一体になって行われている事は違いありません。

なぜ地域がお祭りを必要とするのでしょうか。それは人と人とを結びつけ地域に対する郷土愛を育む機会であり、また地域の人々と関わりを持ち共に創り上げる事で伝統や風習、技術等を若い世代へ教え引き継ぐ担い手育成の場でもあるからです。

この提言書で市民協働型お祭りを提言させていただきますが、決して新しい事業や要素を提案している訳ではない事をご理解して頂きたいと思えます。読んだまま市民と協働して行うお祭り、すなわち元々の姿である市民が創り上げるお祭りをもう一度見直して頂きたいのです。

苫小牧市行政改革プランNEXT STAGEに述べられている苫小牧のお祭り事業内容のマンネリ化と苫小牧市商業観光課職員のお祭りに関する負担軽減の解消するための民間委託とありますが、今のお祭りの状況を把握せず安易に民間企業へお祭りの開催を委託する事になれば郷土愛を犠牲にして苫小牧らしさを失いかねず、市民の意識の空洞化を招く事になります。地域はそこに住まう人以上のものにはならず、人は人によって磨かれるものと言われます。地域の人が、地域に関わりを持ち、人を育てていかなければ何を拠り所とした郷土愛となるのでしょうか。従来通りお祭りを行えばおそらく楽しい思い出にはなるでしょう。しかし人と人との結び付きを強め人材を育て郷土愛を醸成していかなければ、また同じ様にマンネリ化し一部の市民に頼ってしまうイベントに戻る事でしょう。真に反省すべきは、地域に対するお祭りの社会的な役割の一つ「担い手の育成」をする場として気づかずに、年中行事として行ってきた事にあると考えます。

i 「苦小牧市行政改革プランNEXT STAGE」について

現在のお祭りの開催に限って言えば実質的に苦小牧市商業観光課が企画したお祭りを実行委員会が承認し、一部の苦小牧市民が参加している状態であり負担も一部の団体、企業に集中し担い手も育たない状況になっております。この状況を、一つ一つ検証し解決していくのではなく新しい体制での市民協働型のお祭りを提案致します。

具体案

【一般市民を含めた企画小委員会立ち上げ】の提案

マンネリ化したお祭りが悪いものではありません。宗教的なお祭りや伝統的なお祭りは、昔から繰り返されており変化がありません。

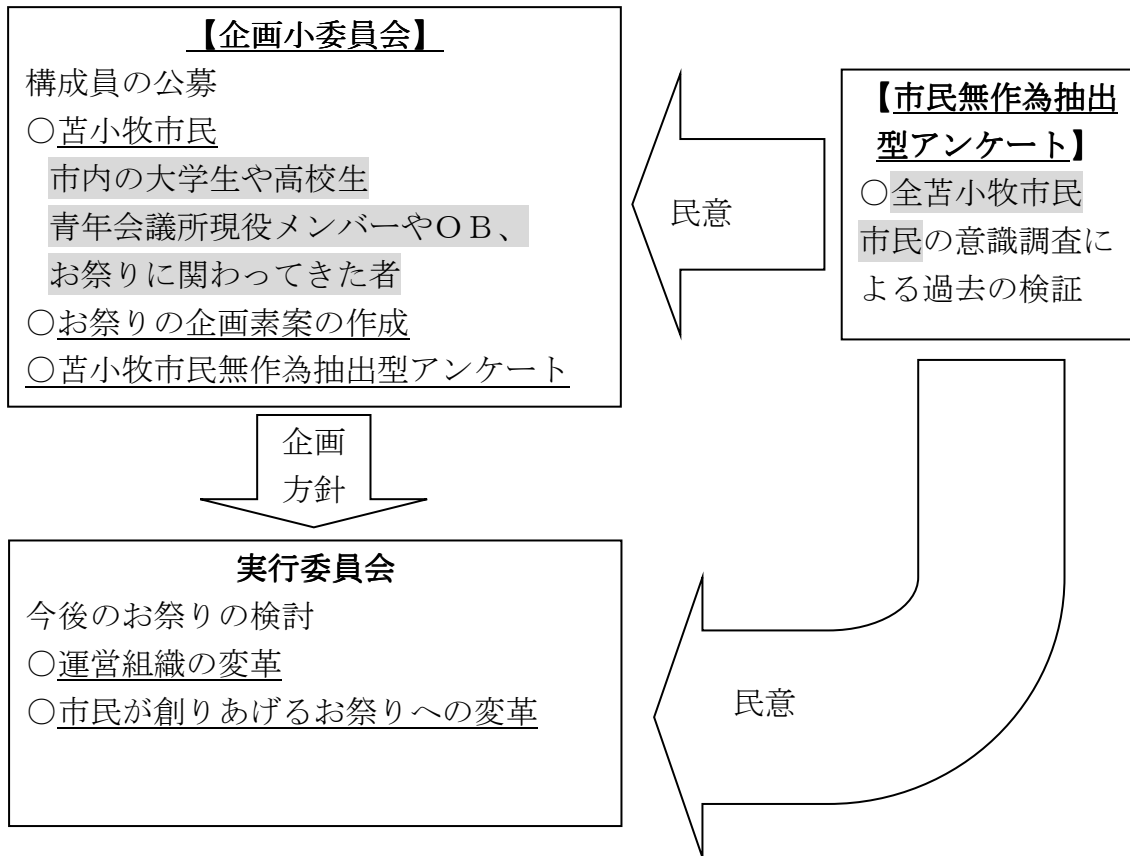
マンネリ化しているように感じられるのは、来場者としてお祭りに来るだけで市民が参加する切掛けが無いからであり、それは担い手の育成がなされていないという事にもなります。例えば市民踊りですが苦小牧市民の参加数は減少し、その代わりに企業の参加数が増加して仕事としての参加になっている状況にあります。

まず一段階目として、苦小牧市民や今までボランティア等でお祭りの設営に携わっている者、苦小牧市内の大学生や高校生、我々青年会議所現役メンバーやOB等の社会団体を含めた市民に苦小牧市のホームページや、広報とまこまいを通じて公募を行い市民に呼びかけ、今後のお祭りを考える為の企画小委員会を設置致します。そしてお祭りの現状を検証し、その解消の為にどの様な方法があるのか市民の意見をくみ上げ、時間をかけて検討する事が必要です。この企画小委員会はあくまでも新しいお祭りの形の立ち上げまで、ここで企画された素案を実行委員会での承認を得て決定する過程を経ます。お祭りに市民、特に若者が関わる事で市民協働へと繋がり地域への活気の源になるはずです。また、とまこまいスケートまつり、港まつりの実行委員会は年間を通じて常設されておらず反省会なども行われておりません。現状のお祭りを検証する為の場を開き良い点、問題点を洗い出す必要もあると考えます。商業観光課もありますが、多忙な業務を解消する苦小牧市行政改革プランNEXT STAGEの方針とは外れてしまいますし、なにより市の業務としてお祭りを検証しても良い結果を導き出すには不適任と考

えます。

そこで二段階目として、市民がお祭りについてどの様に考えているか市民意識の調査が必要です。苫小牧市行政改革プランNEXT STAGEに記載されているお祭りの状況についての調査、検証についてですが、青年会議所もお祭り期間中来場者を対象としたアンケート調査をしております。しかし一般の来場者は会場で楽しむ目的で来ているため、目的と行動が同一であり、自然に振り分けられた状態でのアンケート調査になってしまい客観的な検証にはなりません。そのため、お祭りをより良いものにするという高い意識と客観的な視野をもった組織でもある企画小委員会が、苫小牧市民を無作為に選出し、アンケート用紙を郵送、答えたものを返信してもらう形式での苫小牧市民無作為抽出型アンケート調査を行わなければならないでしょう。苫小牧市民の何割が来場しているか、何を求めているか、なぜ来ないか等の苫小牧市行政改革プランNEXT STAGEに有益な情報と、今後のお祭りコンセプトの方向性を与え高い効果を与えるものと考えます。

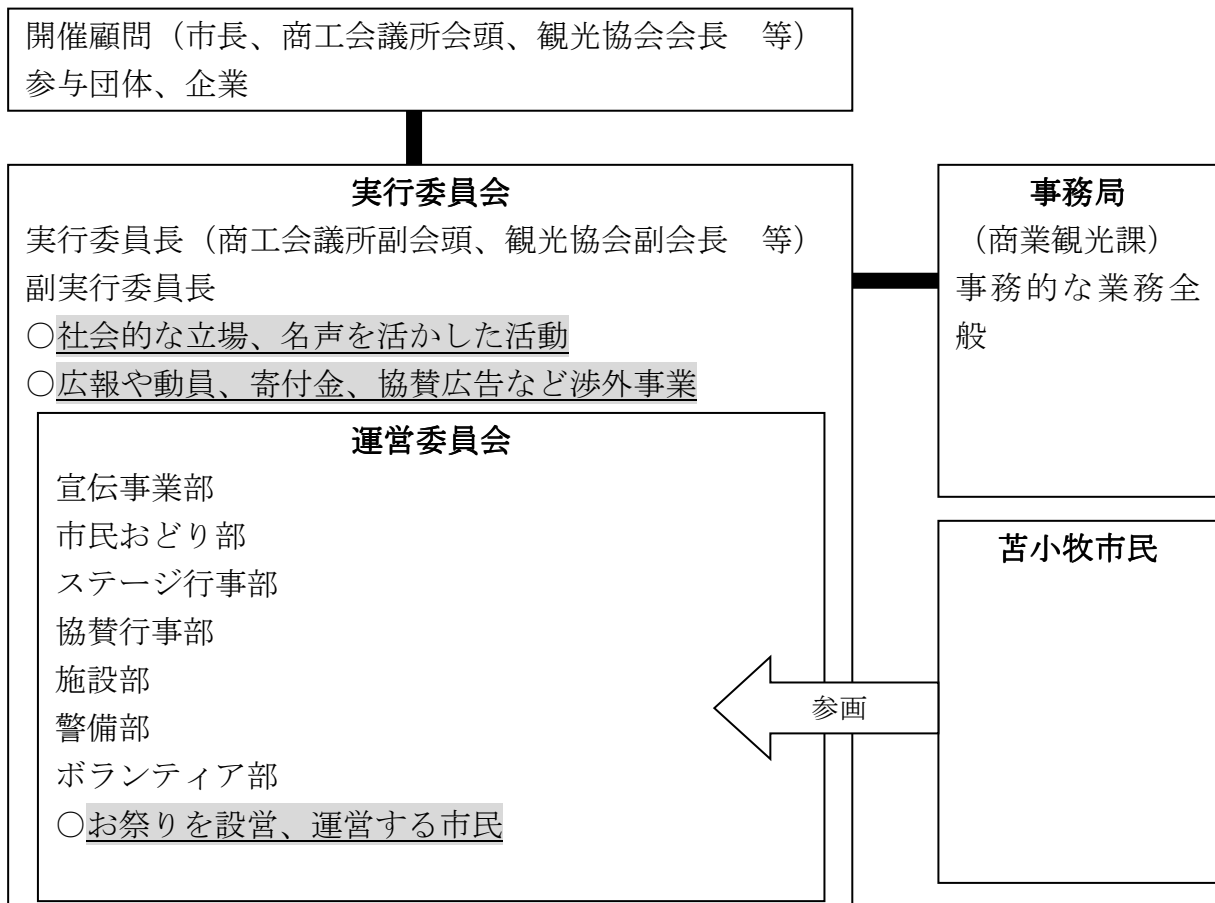
図1 一段階目 企画小委員会役割の図解（提案）



また、とまこまいスケートまつり、港まつり共に言える事ですが同日に会場以外の場所でも町内会のお祭りや協賛行事など各種のイベントが行われています。その事に対して市民はどういった意識でいるのでしょうか。強いて特徴のないイベントが集まったお祭りになって賑わいを拡散させ労力だけ倍増させているイベントの寄せ集めにしかない「総花式のお祭り」になっている現状を、市内で行われる事業の統合も含めて見直さなければなりません。それらにも、第三者の目を持つ企画小委員会の存在が、中立な検証と、今後のお祭りの開催へ対する高いモチベーションの維持に貢献されるものと考えます。

三段階目として運営組織を変革します。これまでの形式的な組織ではなく実行力が伴った組織に変革していきます。また、なれ合いや通過儀礼化を防ぎ、高い目標を維持し続ける為にも部会長や実行委員長に任期を定める事が必要だと考えます。更に、本来事務局として庶務をこなすはずの商業観光課の役割を明確にする為に実際に行っている実務を仕分けする必要もあります。この様に実行委員会を運営の本部として機能させる必要があるのです。そのためにも、今までのお祭りの検証と実務に対しての反省会が絶対不可欠なものだと考えます。

図2 実行委員会の役割仕分けによる相關説明（案）



最終段階として、お祭りの運営に関する公益社団法人各やNPO法人格並びに、企業などへの民間委託になるものと考えます。それらの運営状態、運営の実状を監督し検証反省し、次の年へ引き継いでいかなければ、苫小牧のお祭りは、地域への役割をなさないイベントにしかありません。とまこまいスケートまつり、港まつりに苫小牧市民が参加できる仕組みをつくり、何よりも重要なのは苫小牧市民の参加を促し、活気あるお祭りにしなければ、行政改革プランNEXT STAGEを成しえたとしても大きな成果にはならないでしょう。

II. 市民がお祭りに参加する為の提言

お祭りは住民が地域総出で設える年中行事であり、賑わう場として歌や踊りが欠かせないものになっています。それはただ会場の人々を盛り上げようとしているからだけではなく、参加者を明日への活力を満たす発散の場として社会的責任からの解放する為でもあるのです。例えば会社での役職や家族としての責任などに関わらずお祭りを盛り上げ、同じ立場に立ち執り行う事でお互いの距離を縮め「連帯感」を持つ事で人と人とを結び付けていきます。ただし現在の豊かな社会による隅々までいきとどいた商業サービスの感覚を捨て切れず自分たちだけが楽しむイベントとしてお祭りに来場し人との結びつきを途切れさせるジレンマも生じつつ有ります。しかしお祭りの賑わいは市民が創り上げていく事に間違いありません。

お祭りの持つもう一方の役割として地域の伝統や風習、お祭りの設営等に関わる技術の継承が有ります。お祭りに来て参加し「連帯感」を持って一緒に行う楽しさを感じてもらえれば、お祭りを成し遂げた「達成感」も得られるものです。お祭りに関わり次の世代の担い手へ継承が行う事が、更に一步踏み込んだ形での「達成感」を生み、自らを地域の一員として感じる事で「郷土愛」を再確認する事になるでしょう。

地域の人々と参加する事による「連帯感」と市民の故郷意識・仲間意識を再確認し、終了後の「達成感」を得る事こそお祭りが地域へ与える効果だと言えます。そして世代間を超えてお祭りを設えていく事によって出来る人と人との結びつきによって、次の世代の「担い手の育成」がなされていく事こそが、地域に対するお祭りの社会的な役割なのではないでしょうか。

地域を彩るお祭りには、その土地固有の伝統文化が影響しています。お祭りの伝統や技術の継承をする人と教える人がいて、その土地その土地の地域らしさが強まっていくと考えます。ゼロから創り上げその達成感から「郷土愛」を醸成する事もありますが両者とも創り上げようとする市民の参加により行われる事に違いは有りません。ただし、既存のお祭りにいつも同じ人間が関わっている状況はただ高齢化と参加する市民の減少という問題を拡大させている事になります。地域の伝統や文化を継承し次の世代へ教え繋げる「担い手の育成」が無ければ、「郷土愛」が地域に生み出される事は在りえないと言えるでしょう。

i 「連帯感」と「達成感」の必要性と「担い手の育成」

お祭りを人と人を結びつける場とする為には、同じ目標や苦勞を共にする事による「連帯感」と終了後の「達成感」を参加してくれた各々が感じ感動として持ち帰ってもらわなければなりません。

仙台七夕まつりのように豪華な笹飾りを会社の仲間や町内会の仲間
で半年かけて作り上げたり、10mを超える竹を伐り出し会場に設
営したり、地域総出で立場を超えて共に創り上げていくお祭りにして
いかなければならないでしょう。

しかし市民に活気が無ければ、そもそもの活動もままなりません。
そして仙台七夕まつりで特徴的な大きな吹き流しのような伝統的な
文化は起きえないでしょう。市民の活気こそが苦小牧らしさ、故郷に
しかないものを創り上げていく事に繋がります。

そして、お祭りという行事が郷土愛を育む場として苦小牧市民が地
域への積極的な関わりをもつ切掛けとなる事で「担い手育成」の機会
を創り出す本来の役割を成すと考えます。

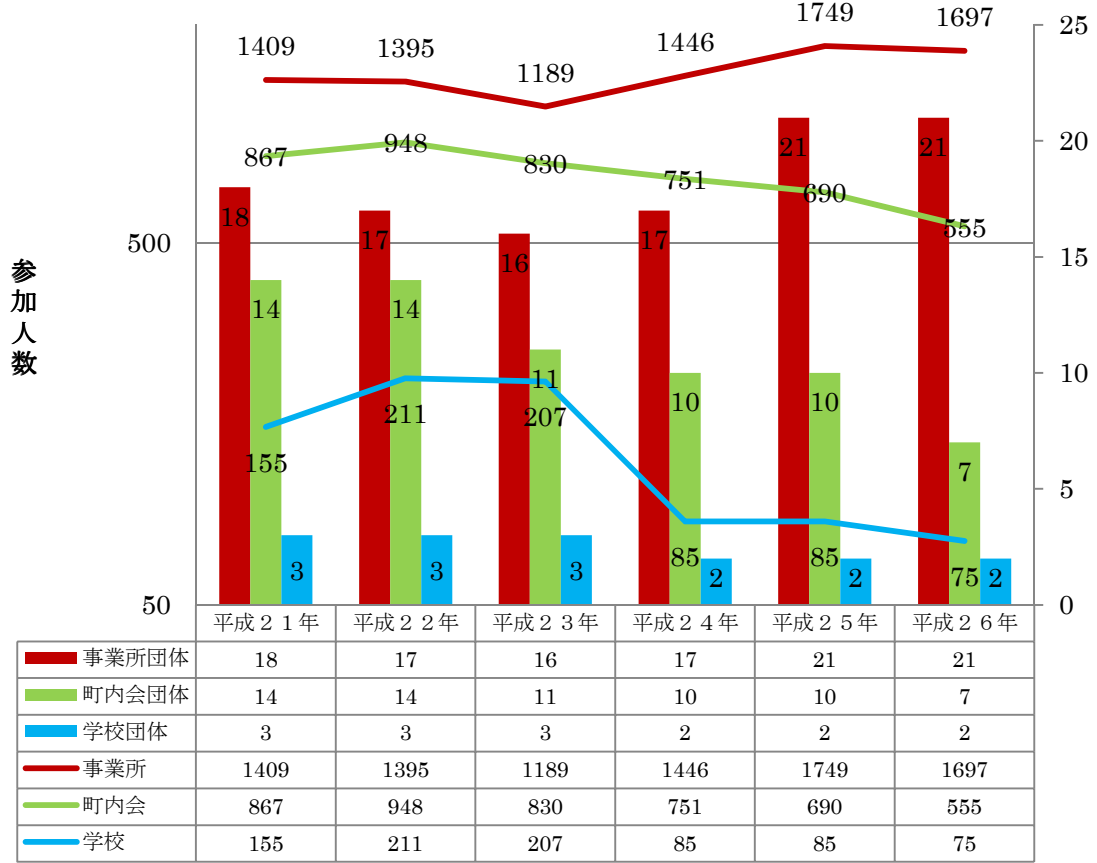
具体案

【とまこまい市民踊りの活性化の提案】

過去、とまこまい市民踊りを学校の体育の時間に教わり、港まつりに参加した思い出の有る方々も多いと思いますが、現在ではそのような事を行わなくなってしまいました。とまこまい市民踊りを教える事の出来る人材が居るにもかかわらず、「担い手の育成」をする機会を無くしてしまい苦小牧市民の参加数は減少し、その代わりに企業の参加数並びに人数が増加してきています。企業として参加している方々も苦小牧市民には違いありませんが、どうしても成人男性の仕事としての参加に集中してしまいます。同じ地域に住んでいながら人と人との繋がりさえない地域になりつつあります。それでは活気の喪失や町内会の衰退も当然の事と言えるかもしれません。

そこで、再びとまこまい市民踊りを活性化するべく小学校や中学校で教えたり、町内会で教えたりすることによってお祭りに参加し「連帯感」を得る地域と苦小牧市民との繋がる機会を創り、とまこまい市民踊りを通じて未来の担い手を育てられるように提案します。そして、人と人との繋がりを創っていくためにも参加企業にも社員だけではなく家族ぐるみの参加を促す必要があると考えます。

市民踊り参加人数と参加団体数



出典：とまこまいスケートまつり実行委員会資料
とまこまい港まつり実行委員会資料



市民踊り 観覧者が少ない様子

【子ども達がお祭りに参加出来る企画実施】の提案

子ども達にお祭りに参加してもらうには運営に関わる大人がそのような企画を用意してあげなくてはなりません。今年度、我々青年会議所では子ども達をお祭りに参加してもらう為に、とまこまいスケートまつりで苫小牧市内の保育園や幼稚園の園児、放課後児童クラブの生徒を対象として紙袋ランタンを作ってもらい、紙袋に切り絵や色紙を張りマジックや色鉛筆で絵を描いて、夜にろうそくを灯し飾りました。



紙袋ランタン作り方を
教えている風景



紙袋ランタン 展示風景

また、とまこまい港まつりでは苫小牧市内の小学生に夢ハンカチを製作して頂きました。30cm角の布に自由な発想で夢をかいてもらい縫い合わせ、これを苫小牧青年会議所ブースに展示しました。このように広く子ども達にもお祭りに参加する企画を行い、参加する切っ掛けを与えれば多くの子ども達が参加してくれる事が解りました。特に港まつりでは過去5年間の来場者は約3,000～4,000名ですが、今年は約8,800名の方に来て頂きました。この様に子ども達が参加する事でお祭りの来場に繋がる事が実証されております。この二つの事業から苫小牧には市民協働型お祭りを行う潜在的な能力は十分に保有していると考えます。この様な企画を実行委員会で企画する事で多くの市民、子ども達を巻き込む事に繋がり、市民が創りあげる、市民協働型のお祭りに発展すると思えます。



夢ハンカチ作業
キルトクラブ風景



夢ハンカチ
展示風景

表 過去5年間のJ Cアトラクションブースへの来場者数

年度	1日目 来場者数	2日目 来場者数	3日目 来場者数	来場者総数	アトラクション名
2011	696	1267	873	2,836	昔の歴史・遊び体験
2012	1,047	1875	1,366	4,288	J Cホラー迷路
2013	322	871	1,021	2,214	J C港大冒険
2014	838	1062	1,413	3,313	J Cフレンドパーク!
2015	1,568	3084	4,128	8,780	夢ハンカチ、他

一般社団法人 苫小牧青年会議所調査

4、最後に

この苦小牧を取り巻く環境は刻一刻と変化していきます。苦小牧の未来を良いものにするかどうかはそこに住まう市民次第であり、何よりも悪いのは、ただ観ているだけで何も考えず何も行わない事です。非難される事もあるかもしれませんが、我々には行動に移さなければならない責任があり、この苦小牧を次の世代に託す義務が私たちの世代にはあるのです。

地域に果たすお祭りの役割は、本書で述べた人と人とを結びつけ、故郷と仲間を再確認し、ある種の充実感をえる事にあります。それは市民と苦小牧という地域を結ぶ、つまり人と地域に絆を構築する最善の手法と言えるでしょう。

苦小牧らしい物と聞かれると、どのように答えるでしょうか。知識として蓄えられた数字や聞いた話をそのまま答えていると思います。地域固有の文化を構築するのは、そこに住まう人々であり、地域に対する郷土愛と市民自身の持つ活気が無ければ造られることはありません。

そのためにも、まずは私たちを含めたお祭りに関わる人々に、お祭りを「担い手の育成」も兼ねているという意識改革を起こし、行動喚起を行う必要があると考えます。それは市民協働型のお祭を行わなければ成し得ないと当委員会は結論づけました。苦小牧青年会議所もお祭りに関わらせていただき、メンバー間同士の「連帯感」を感じ、苦労を共にして成し遂げた事への「達成感」を得て組織の団結を強めております。その様な「市民協働の輪」を、苦小牧市民に広げていかねばなりません。その先には、郷土愛溢れる市民主導型の苦小牧が創られていると確信致します。

5、付則

●参考資料

仙台七夕まつり

<http://www.sendaitanabata.com/>

紙袋ランタンフェスティバル

<http://www.lantern-takikawa.jp/>

富士夢祭り

<http://www.fujiyume.com/>

おたる潮まつり

<http://otaru.ushiomatsuri.net/>

にっぽんど真ん中祭り

<http://www.domatsuri.com/>

今治市民のまつり おんまく

<http://www.onmaku.jp/>

●参考文献

- ・ 苫小牧市行政改革プランNEXT STAGE
- ・ 協働ガイドライン（平成26年3月総合政策部政策推進室市民自治推進課）
- ・ 地域づくり2010年7月号（通巻253号）
特集－祭り文化の再生と地域活性化
- ・ 市民カライブラリー 市民協働の考え方・つくり方 松下啓一著 萌書房

発行者

一般社団法人 苫小牧青年会議所 

	理事長	青山	直樹		
	副理事長	大槻	卓矢		
	室長	春日	剛史		
市民協働委員会	委員長	佐藤	天亮		
	副委員長	佐々木	真史		
	幹事	小林	史郎		
	委員	黒瀧	優一	佐藤	章一（編集担当）
		田中	克和	牧野	巖志
		水越	拓也	吉川	学
		武田	美緒		

発行日 平成27年10月29日